

はじめに



岐阜市は、長良川、金華山などに代表される豊かな自然を有し、その生物多様性（生きものたちの豊かな個性のつながり）からもたらされる農産物、水産物、飲料水などの恵みを楽しむことにより、ぎふ長良川鵜飼など、文化や市民の暮らし、産業などを育んできました。

私たちの文化や暮らし、産業などが今後も持続可能であり続けるためには、この生物多様性をしっかりと守り、引き継いでいかなければなりません。

生物多様性については、世界的な損失状況が続いており、この状況を反転させる自然再興、いわゆるネイチャーポジティブの実現が、将来に向けての大きな目標となっています。

本市は、2002（平成14）年の環境都市宣言以降、「岐阜市自然環境の保全に関する条例」などの制定、「岐阜市生物多様性プラン」などの策定をはじめ、「岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト2015」、「岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック2023」などの作成、「岐阜市自然環境基礎調査」や「岐阜市の自然情報継続調査」の実施など、生物多様性の保全に向けて、積極的に取り組んでまいりました。

特に、2016（平成28）年に策定した「岐阜市生物多様性プラン（計画期間：2016年度-2025年度）」は、本市にとって初めての生物多様性地域戦略であり、策定以降、このプランに基づき、生物多様性の保全と持続可能な利活用を推進してまいりました。

このたび、「岐阜市生物多様性プラン」の計画期間が、2025（令和7）年度に終了することから、さらなる生物多様性の保全と持続可能な利活用を推進するため、「岐阜市生物多様性プラン」を改定し、「第2期岐阜市生物多様性プラン（計画期間：2026年度-2035年度）」を策定しました。

今後は、この「第2期岐阜市生物多様性プラン」に基づき、長良川、金華山などに代表される私たちの心の原風景を未来へつなぎ、ネイチャーポジティブの実現を目指して、引き続き取組を推し進めてまいります。

最後に、「第2期岐阜市生物多様性プラン」の策定にあたり、ご尽力をいただきました岐阜市自然環境保全推進委員会の皆様をはじめ、貴重なご意見、コラムなどをお寄せいただきました関係者の皆様や多くの市民の皆様へ心から感謝を申し上げます。

令和8年3月

岐阜市長 柴橋 正直

目次

「岐阜市生物多様性プラン」改定にあたって	1
第1章 背景と基本的事項	2
1 生物多様性プラン改定の必要性	2
2 生物多様性プラン改定の背景	4
3 第2期生物多様性プランの位置づけ・法律、条例と関連計画との位置づけ	14
4 SDGsの推進	14
5 第2期生物多様性プランの対象とする区域	14
6 第2期生物多様性プランの計画期間	15
第2章 岐阜市における生物多様性の現状と課題	16
1 本市の現状	16
2 岐阜市の動植物	18
3 人の暮らしと生物多様性	24
4 自然環境の現状	26
5 生物多様性についての課題	39
第3章 生物多様性プランが目指すもの	42
1 目指すべき将来の岐阜市の姿	42
2 基本方針	44
3 生物多様性を保全する取組	46
第4章 推進体制	62
1 推進体制	62
2 進捗管理	63
資料編	64
1 市域の概要	65
2 生物多様性プラン改定までの経緯	73
3 市民意識調査	78
4 岐阜市自然環境の保全に関する条例	79
5 里地里山	82
6 コラム執筆者	83
7 岐阜市自然環境保全推進委員会	84
8 岐阜市自然環境保全推進委員会検討・策定部会	87
9 ヒアリング	87

「岐阜市生物多様性プラン」改定にあたって

目指すべき将来の岐阜市の生物多様性の姿を示し、生物多様性の保全と持続的な利活用を推進する基本的な計画、「岐阜市生物多様性プラン（計画期間：2016年度-2025年度）」を2016（平成28）年に策定してから、10年が経ちました。「岐阜市生物多様性プラン」は岐阜市で初めての生物多様性地域戦略であり、その策定にあたっては、多くの研究者、有識者、ボランティアの皆さんなどにご協力いただき、支えていただきました。

「岐阜市生物多様性プラン」の策定以降、目指すべき将来の岐阜市の姿「多様な生きものと“あたりまえ”に暮らすまち」を目指して、様々な取組が進められてきました。

「周知・啓発、人づくり」においては、こどもエコクラブ、水生生物調査など、策定前から行われていた取組が現在も続けられています。アースレンジャー自然体験塾は、策定以後、新たに始まった取組です。

「希少種・重要な環境の保全」においては、達目洞や大洞といった生物多様性保全上、重要な場所において、定期的な保全活動が行われており、現在も良好な生物多様性が保たれています。希少種であるヒメコウホネやヤマトサンショウウオにおいては、絶滅のリスクはありますが、その生息・生育状況は確実に保全されています。ヒメコウホネ、ヤマトサンショウウオ以外の希少種についても研究者、有識者の方々と連携して、保全に取り組んでいます。

このような状況の中、2015（平成27）年に公表した「岐阜市版レッドリスト・ブルーリスト 2015」の見直しが行われ、「岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023」を2023（令和5）年に公表しました。このときに構築された調査体制を活用して、各分類群の現状を把握する「岐阜市の自然情報継続調査」が毎年、行われています。

「岐阜市生物多様性プラン」の改定にあたっては、このような、これまでの取組を反映しつつ、「昆明・モンリオール生物多様性枠組」など、世界的な情勢も考慮し、内容を見直しました。また、「生物多様性国家戦略 2023-2030」では、生物多様性の損失を止め、反転させる、いわゆるネイチャーポジティブの実現を目指していることから、この目指すべき方向性についても検討を重ねました。このような経緯を経て、見直すべきところ、そのまま維持するところなどについて、多くの方々の意見を踏まえながら、岐阜市自然環境保全推進委員会で審議しました。

これからの10年、新たになった「第2期岐阜市生物多様性プラン」に基づき、「多様な生きものと“あたりまえ”に暮らすまち」を目指して、様々な取組が進みます。

令和8年3月

岐阜市自然環境保全推進委員会

委員長 近藤 慎一